

2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 3 月 25 日

所属	人間社会学部	職名	准教授	氏名	齊藤紀子
研究課題	生活支援サービス（有償ボランティア）のマネジメントに関する研究				
研究キーワード	有償ボランティア、協働、よい支援、ティール組織	当年度計画に対する達成度	1.目標を超える研究の進展・成果を達成した		
関連するSDGs項目	11. 住み続けられるまちづくりを	17. パートナリーシップで目標を達成しよう	3. すべての人に健康と福祉を	該当なし	

1. 研究成果の概要

少子高齢化社会において高齢者が地域で安心して暮らしていくためには、自助・共助・公助に加えて互助による生活支援サービスが必要不可欠となっている。2015 年以降、有償ボランティアによる生活支援サービスが少しずつ再生し、行政による支援プログラムが拡充している。これまで有償ボランティアとしての「よい支援」とそのマネジメント方法につき参与観察により研究を行ってきたが、コロナ禍においてフィールドでの対人サービスや対面での打合せ・交流が困難となり、生活支援サービスの新たなスタイルの模索が必要となった。そこでいったんこれまでの研究成果を取りまとめ、書籍として出版することとした。

書籍では市民が訪問型生活支援サービスを提供する有償ボランティア活動をはじめの時に、あると助かる実践的な情報(マネジメントノウハウおよび各種書式)を提供するとともに、介護・医療・地域間の協働がますます必要とされる中、こうした市民活動が今後発展していくために、支援活動や調査活動から得られた示唆を提示している。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

なし

【著書・論文（査読なし）】

- ・齊藤紀子・清水さえ子著、小林静子監修（2021）『市民による訪問型生活支援サービス：有償ボランティアで取り組む人に』学事出版
- ・齊藤紀子・清水さえ子（2021）「訪問型生活支援サービスを提供する有償ボランティア団体におけるマネジメント課題」日本福祉教育・ボランティア学習学会 第 27 回埼玉大会 報告要旨集 <https://jaass-online.jp/wp/wp-content/uploads/2021/11/2021saitamayoushi.pdf>

【学会発表等】

- ・日本福祉教育・ボランティア学習学会 第 27 回埼玉大会（2021 年 11 月 27-28 日、オンライン）「訪問型生活支援サービスを提供する有償ボランティア団体におけるマネジメント課題」（自由報告）
- ・シニア社会学会 第 138 回社会保障研究会（2022 年 2 月 16 日、オンライン）「市民による有償ボランティア型生活支援サービス—アクション・リサーチから得られた示唆」（招待報告）

3. 主な経費

- ・学会年会費、年次大会参加費、研究会・カンファレンス等参加費
- ・打合せのための Zoom 利用料（有料アカウント）
- ・書籍・論文購入費
- ・献本郵送費 など

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

学長プロジェクト2「CSR 研究と普及啓発」における B チーム「USR（大学の社会的責任）を果たすための新しい指標づくりに関する研究」として、下記研究活動を行った：

- ・齊藤紀子・橋本隆子・奥寺葵・杉本卓也・安藤崇（2021）「大学の社会的責任(University Social Responsibility: USR)活動を評価・改善するための指標づくり－SDGs 達成に向けて」『SDGs と大学－自然エネルギー100% 大学の挑戦』（近刊）
- ・齊藤紀子・橋本隆子・奥寺葵・杉本卓也・安藤崇・小林博子（2021）「SDGs を考慮した新たな大学評価指標と統合報告書」日本地域学会 第 58 回年次大会 学術発表論文集
http://jsrsai.jp/Annual_Meeting/PROG_58/proceedings2021.pdf
- ・日本地域学会第 58 回年次大会（2021 年 10 月 9-10 日、オンライン）における特別セッション「組織の SR 評価のための統合報告書」（座長）および自由報告セッション「SDGs を考慮した新たな大学評価指標と統合報告書」（報告）